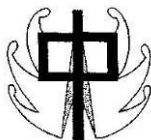


上越市立柿崎中学校だより		令和7年3月21日発行	「青春不再来」は、大廊下に掲げられている木彫の言葉です。 「学習、生徒会、部活動などに、生徒は一生懸命です。悩んでいる生徒もいます。でも、どの生徒も、かけがえのない中学校生活を精一杯生きている。」という意味です。
	せいしゅんふたたびきたらず 青春不再来		
第 11 号			
柿崎区法音寺 392-1 TEL:536-2496 http://www.kakizaki-j.jorne.ed.jp/			

[第 55 回卒業式式辞より] 「命を大切にする」「前向きに生きる」

校長 大 塚 啓

新しい一歩を踏み出す皆さんに、はなむけの言葉として2つの言葉を送ります。

1つ目は「命を大切にする」ということです。私たちを取り巻く世界は、これまでの平和や協調の時代から、様々な紛争や対立の時代へと変化しています。今、この時も戦争が行われています。なぜ、自分の命や家族の命は大切なのに、隣の国の人の命は大切にしないのでしょうか。皆さんの命は1つだけですが、その命はお父さんとお母さんから授けられたものであり、人類の歴史が始まってから 500 万年もの間、延々と受け継がれてきた命です。お父さんとお母さん、お祖父さんやお祖母さん、曾お祖父さんや曾お祖母さん、その間のだれかひとりが欠けても、皆さんは存在しないのです。それは他の人も同じです。すべての命は尊く、かけがえのないものです。どうか皆さん、自分の命も、人の命も大切にしていってください。それができる人は、みんなから愛される人になれると思います。



2つ目は、「前向きに生きる」ということです。これからの皆さんには、楽しいことがたくさん待っています。新しい学校、新しい友達、好きな人もできるかもしれません。でも、楽しいことばかりではなく、辛いこともきっとあると思います。どんなに辛いことがあっても、しっかりと前を向いて努力していれば、必ず楽しいことがまたやってきます。人類の歴史の中では、何度も災害や戦争など辛いことや悲しい事がありました。でも、その度に皆さんのご先祖はそれを乗り越え前向きに生きてきました。だから、あなた方がここにいます。苦しくてしょうがなくても、いつかはそれが薄れ、また楽しいことがやってきます。

「命を大切にする」「前向きに生きる」この2つを心の中心において、たくましく生きていってください。

3月7日、第55回卒業生は感動の卒業式を終え、学び舎をあとにしました。ご臨席いただきました保護者、ご来賓の皆様方に厚く御礼申し上げます。これからも、地域の皆様方からのご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

別れの言葉

卒業生代表 長井 在希

皆様、本日はお忙しい中、心のこもった卒業式を挙行してくださり、ありがとうございます。卒業生一同、心から感謝いたします。私たち68名は、本日、義務教育の過程を終了し、広い世界へと旅立つ時を迎えました。こうしてこの場に立つと、懐かしく、心温まる思い出が次々とよみがえってきます。

この3年間、私たちは「挑戦」を合言葉に、励まし合い、切磋琢磨しながら成長してきました。

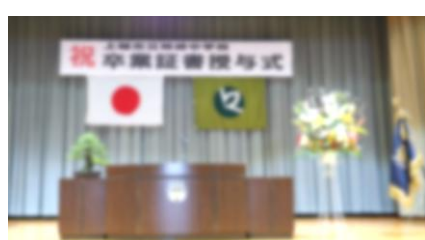
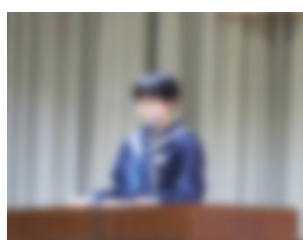
そのスタートである小6部活動体験の時には、中学校の生活を分かりやすく説明しようと工夫したり、中学校に少しでも親しみを もてるよう、制服やユニフォームを披露するパフォーマンスを取り入れたりしました。

秋には、柿崎区内をめぐり、歴史ある建造物や豊かな自然に触れ、潮風漂う街並みを散策しました。また、地域の方をお招きし、柿崎のよさや課題について教えていただく機会もありました。活動を通して、遠い昔の人たちと自分たちがつながっていることや、多くの人たちに支えられていることに気が付きました。

入学から2度目の春には、新たな挑戦が始まりました。先輩としての振る舞いに、戸惑ってばかりだった体育祭。3年生が引退し、あっという間に責任ある立場を務めることになった部活動。職場体験にもチャレンジしました。これまでと違う経験をしたり、異なる環境で生きる人と出会ったりすることで、視野がぐっと広くなりました。

令和6年4月、私たちは3年生としてのスタートを切りました。これまでの挑戦を成果につなげようとしたことが目指したこと、それは 「Next Stage—挑戦の先へ」 です。

決して、うまくいくことばかりではありませんでした。時間の制約や学習との両立、時に味わった挫折感。全校生徒や地域の皆さんが、つながりや喜びを感じるのには、どのような活動なのか、アイデアを出し実行するのは、とても難しいことでした。



しかし、こうして振り返る思い出は、どれも仲間の笑顔と共によりみがえってきます。それを、最も象徴するのが、10月の合唱コンクールです。難しい曲に挑戦すると決まったものの、練習に向かう熱量が、初めからみんな同じというわけではありませんでした。それでも、最高学年として歌う姿と声を後輩に残し、地域・保護者の皆さんに届けたいという意思でぎりぎりまで仕上げ、私たちの合唱を披露しました。

常にベストを尽くすことが、大きな成果につながることを、自分たち自身に証明した一日でした。

ここにたどり着くまで、たくさんのことを学んできました。同じ目標を掲げ一生懸命取り組むと、人とのつながりができ、心の距離が縮まること、そしてその過程はとても充実していること。体育祭や修学旅行はそれを教えてくれました。仲間と一緒にがむしゃらに励んだ部活動も、大切な学びの場でした。

3年間で培ったお互いのきずなは、他には代えられない財産です。私たちは良き仲間として成長してきたと、胸を張って言えます。

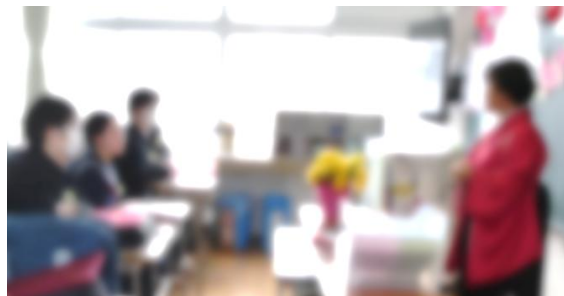
在校生の皆さん、様々な活動と一緒に取り組みましたね。皆さんとの活動を通じて私たちはリーダーとしての資質を高めることができました。皆さんと分かち合った達成感と充実感は、私たちの心に深く刻まれています。これからも常にチャレンジの精神で、活気ある学校づくりを目指し中学校生活を大いに楽しんでください。

これまで、私たちを導いてくださった先生方、本当にお世話になりました。いつも私たちに寄り添い、時には、あえて厳しい態度でサポートしてくださったことに、心から感謝します。

家族や地域の皆様、いつも大きな心で私たちを見守ってくださり、ありがとうございました。登下校時のにこやかな挨拶、車でのお送迎、大会の時の大きな声援やお弁当、時にはお互いの愚痴を聞き合ったりもしましたね。今日の姿を見せることができ、ほんの少しだけれど、恩返しができたような気がします。

私たちは、柿崎中学校で培った精神を忘れず、前へ進みます。互いを思いやり助け合い、仲間と一緒に挑戦を続けるその先に、自分の夢が待っていると信じて。

そして、この精神が、変わらない伝統として受け継がれ、柿崎中学校が私たちの自慢の母校であってくれることを願い、お別れの言葉といたします。

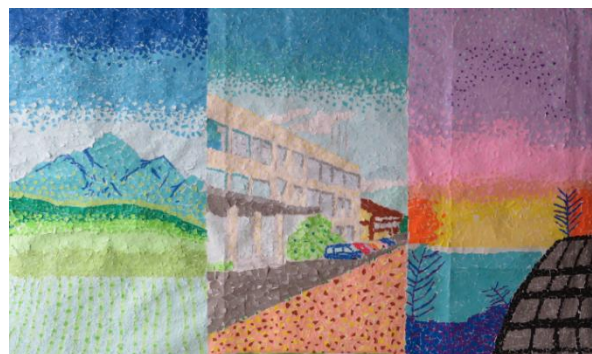


ふるさと 「よき故郷」

美術部では、12月から貼り絵アートに取り組んできました。制作のテーマを「柿崎のよさと柿崎中」と定め、柿崎中生徒が共有してきた風景を作品にしました。作品名は「よき故郷」。

唱歌「ふるさと」の歌詞にあるとおり、ふるすとは誰にとっても「忘れがたき」ものであり、「思ひいづる（思い出す）」ものであります。柿崎の地で育つすべての人にとって、米山や日本海、中学校の校舎が忘れがたきよき風景として記憶の片隅に残り続けることを願っています。

今年度も地域や保護者の皆様からご理解やご協力をいただき、誠にありがとうございました。



初夏の米山

中学校校舎

夕日の染まる日本海



作品を制作した美術部員

各種表彰

バレーボール部

第30回富山市バレーボール協会杯中学男女選手権大会 3位

書道

第45回書写技能認定書初め会

会長賞（二席）山田 紗季 会長賞（三席）山賀 心遥

会長賞 吉崎 大惺 幸平 翔大 室岡 未来

新貝 埜子 小松 暖和

美術

第65回新潟県児童生徒絵画・版画コンクール 絵画部門

金賞 内藤 あかり 菅野 慶多

銀賞 井上 康真 太田 美羽 新貝 埜子 楡井 遥斗 深沢 歩花



お知らせ

◇家庭からの欠席・遅刻連絡について（保護者の皆様へ）

中学校では欠席・遅刻については、電話での連絡を基本としていましたが、令和7年度より保護者連絡帳アプリを用いた連絡も受け付けることとしました。操作マニュアルについては、各家庭に一斉送信しましたので、ご確認ください。

◇新潟県教育委員会から教育広報誌「かけはし」63号発行の案内がありました。データは新潟県HPに掲載されています。右のQRコードまたは「新潟県かけはし」で検索し、ご覧ください。



保護者連絡帳



◇今年度、生徒会活動の一環でベルマークの回収を行いました。おかげさまで8881点分のベルマークを回収することができました。なお、これまで学校に保管されていたものと合わせると、13,951円分の品物と交換することができます。今後の活動に資するよう有効活用させていただきます。ご協力、ありがとうございました。